

自分の意見書けた

親しよう
深めよう
NIE上

2012年度実践校報告から

県NIE推進協議会(山内彰会長)は6日、那覇市天久の琉球新報社で2012年度の総括となる報告会を開催した。NIE実践校9校が年間の取り組みや実践例、児童生徒の変化について発表し、今後の展望について意見を交わした。各校の報告を紹介する。

朝学習でスクラップ

うるま市立中原小は学校全体でNIEに取り組む。昨年11月に県NIE実践フォーラムを開催し、全学級で公開授業を実施した。身に付けさせたい力を明確にした上で、学年や成長段階に合わせた授業を展開した。仲地エリ子教諭が実践例を多数紹



新聞スクラップコンテストへの取組(全学年)

入賞者19名
優秀賞 3名
優良賞 5名
佳作 11名

児童のスクラップの取組を紹介する
越来小の福地正雄教諭(右)、那覇市天久の琉球新報社



新聞を使い、いじめ問題について考えるゴザ小学校5年2組の児童たち=2012年10月26日、沖縄市の同校

介した。紙面から「秋の季語」「かたかな」「うるま市の記事」を探し、それを基に新聞作りなどを実施した。

県内でNIEの先駆けとして全学年で活動を継続しているのが小椋南小だ。朝学習に「NIEタイム」を設け、児童が自分で新聞記事を選ぶスクラップなどに取り組んでいる。日本新聞協会主催の第3回「いっしょに読もう!新聞コンクール」で、全国の団体応募291校の中から10校が選ばれる学校賞に輝くなどの成果を残した。子安緑教諭が報告した。

沖縄市立越来小は4年に1度開催されるオリンピック記事の見出しや写真を切り抜き、テーマを設けて再構成する新聞スクラップに5年生が取り組んだ。6年生は修学旅行の事前学習と

教師工夫、児童に変化

して沖縄の本土復帰40周年についてワークシートにまとめた。新聞社主催の新聞スクラップコンテストに全児童292人で取り組み、19人が入賞した。福地正雄教諭は「これまでの中でも大きな成果が出た」と話した。

言語活動の充実

教師、児童ともに「無理なく、継続できる取り組みを」とテーマを掲げ、実践したのは沖縄市立ゴザ小の古波津教諭。同教諭は、NIE活動を言語活動を充実させるための一つの方法論と位置付ける。独自の取り組みとして3年生以上の児童を対象に全体集会や帰りの会などでメモを取らせる活動をした。3年は「見出しの役割を知ろう」、5年生は「いじめについて考えよう」で授業を展開した。ニュースや先輩たちのメッセージを読んで自分の意見が書けるようになるという成果につながった。

アミークスの上江洲シヨアナかおる教諭は毎週1回、小中学生新聞からワークシートを作り、新聞を見ながら解かせている。年に2回、本紙からのテストを出すなど年間を通して継続した。

昨年9月から県指定実践校として活動をスタートさせた石垣市立伊野田小は、いつでも新聞に触れることができるように新聞コーナーの設置から始めた。石田美喜子教諭らによる記事の読み聞かせの他にも、八重山毎日新聞社の見字を通して新聞との距離を縮めた。アドバイザーからは「スタート時として、十分な取り組みだ」との声があった。